



SS科学基礎 (第1回出張講義)

平成26年5月9日(金)に、本校1学年の生徒264名を対象として、宇都宮大学農学部教授の小金澤正昭先生に出張講義をしていただきました。演題は、「奥日光におけるシカとサルの生態と現状」です。講義では、まず小金澤先生の研究内容や日々のフィールドワークについてお話があり、その後に現在調査しているシカやサルの生態と周囲の環境(生態系)に与える影響についてお話をいただきました。

シカの個体数が増えることで「カモシカの個体数が減少する」「シカの好物であるシラネアオイやミヤコザサの数が減少し、忌避植物であるシロヨメナやクリソウの数は増加する」というように、シカの個体数の増減が奥日光地域の動植物に与える影響が多面に及ぶことが分かりました。またシカは一般的に農作物を好むので、奥日光地域に住む我々人間の活動(特に農業)にも影響が大きいことが見て取れました。また、シカの追跡調査に用いる手法「テレメトリー調査」は、捕獲したシカ個体にGPS付き首輪の発信器を装着し移動状況を把握する方法であり、従来の調査法に比べると追跡調査が格段に簡素化された点で革命的だということで、現在はこのテレメトリー調査と現場に残された糞などから得られるミトコンドリアDNAの解析から、シカの越冬地や全体的な分布、さらに1匹のシカがどのくらいの距離を移動するのかといったことまでほぼ正確に把握することが出来るようです。

また今年度はサルの調査についてもお話を聞くことができ、「サルの体毛の長さや天候の関係」や「糞の内容物を調べて食性の変化をつかむ」といった調査もシカの調査と併せて進められていることが分かりました。

このように、日々の授業の中でなかなか聞けない現場レベルのお話にも、生徒たちも興味津々といった様子で講義に耳を傾け、先生の言葉をメモしていました。講義後の質疑応答では、生徒の手が次々と上がり、その都度小金澤先生は丁寧に答えてくださいました。また、後日提出された講義レポートでは、「身近な地域で起こっていることを今までは良く知らなかったが、今後は関心を持ちたい」「シカの個体数を管理することはかなり難しいが、自分たちの手で奥日光地域の環境を守っていくべきである」といった率直な感想もみられ、大変有意義な講義になったのではないかと思います。例年、本校のSSH活動の一環で実施している日光戦ヶ原自然探究活動や尾瀬ヶ原自然探究活動、

奥日光環境学習等に入る前に小金澤先生の出張講義を聞くことで、足尾や日光の自然のことや環境に対する生徒の意識が高められ、良い形で新年度のSSH活動のスタートが切れました。



↑ 講義の様子



↑ 講義に熱心に耳を傾ける生徒たち



↑ 質疑応答の様子